



ニッチプログラムアフィリエイト

記事作成編

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。
できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。
下記の点にご注意いただきご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。
著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を
いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、
この商材の全部又は一部をいかなる手段においても
複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、
関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、
民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。
著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、
見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、
万一誤り、不正確な情報等がありましても、
著者・パートナー等の業務提携者は、
一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、
著者・パートナー等の業務提携者は、
一切の責任を負わないことをご了承願います。

◎目次

【サイトの構成を考えよう】	4
■各記事タイトルのキーワードを見つけよう	4
■サイト構成の作成手順を覚えよう	11
【効率よく良い記事を書いていくには?】	23
■はじめに概略を決めよう	24
■タイトルに合った記事ネタの探し方	26
■ライティングのポイントとは?	28
■著作権法違反をしないために	33
■「うまく記事が書けない…」という場合は	37
【トップページの書き方を覚えよう】	40
■冒頭に気を引くフレーズを使おう	42
■サイトの記事を読む動機付けを与えよう	44
【カテゴリ記事で使える時短テクニック】	47

【サイトの構成を考えよう】

いよいよ記事の作成に入っていくわけですが、
まずはじめにどんな構成のサイトにするか、
サイトの構成を考えなくてはなりません。

サイト構成とは、トップページの下にいくつかのカテゴリを作り、
各カテゴリにどんな記事を載せるかということです。

自分の書きたいと思う記事だけを、
ただ書いていても訪問者は興味をもってくれませんし、
下手したら全くアクセスがないかもしれません。

サイト構成を考える時は、
各記事それぞれ訪問者にニーズのある記事でなければいけません。

そのために、どのようにサイト構成を考えていけばよいかというと、
サポートキーワードを決めたときと同じやり方をします。

■各記事タイトルのキーワードを見つけよう

サイトタイトルのサポートキーワードを見つける際、
下記の「キーワードチェックサイト」で、キーワードを見つけましたね。

『Google AdWords : キーワードプランナー』

<https://adwords.google.co.jp/select/KeywordToolExternal>

ここで、もう一度「バッティング」と入力して、検索をしてみましょう。
 すると、バッティングに関連するキーワードがぞくぞくと出てきましたね。

宣伝する商品やサービス

バッティング

候補を取得

検索条件を変更

広告グループ候補		キーワード候補				
広告グループ (関連性の高い順)	キーワード		月間平均検索ボリューム	競合性		
バッティング (169)	バッティングセンター、バッティング指導、トスバッティング ネット、バッティ...	📄	1,110	低		
野球 (33)	野球 バッティング、野球 バッティング 練習、少年野球 バッティング、少年...	📄	270	低		
グローブ (19)	バッティンググローブ、ローリングス バッティンググローブ、バッティンググロ...	📄	160	中		
フォーム (14)	バッティングフォーム、野球 バッティング フォーム、理想のバッティングフォ...	📄	130	低		
打撃 (16)	野球 打撃練習、打撃練習、野球 打撃、ソフトボール 打撃、打撃練習方法、...	📄	120	低		
類似キーワード: バッティング (9)	バッティング、ピッチング、バッティング、バッティングとは、ピッチャートレーニン...	📄	100	低		
ソフトボール (16)	ソフトボール バッティング、ソフトボール バッティングセンター、ソフトボール...	📄	100	低		
イチロー (9)	イチロー バッティング、イチロー バッティングフォーム、イチロー バッティング...	📄	90	低		
練習 (10)	バッティング 練習 通販、バッティング練習、バッティング 練習 器具、バッテ...	📄	80	低		
神宮 (11)	神宮 バッティングセンター、神宮 バッティングドーム、神宮外苑 バッティング...	📄	60	低		
上達 (9)	バッティング上達法、野球 バッティング 上達、バッティング 上達、バッティ...	📄	60	低		
打ち方 (9)	野球 打ち方、ソフトボール 打ち方、野球の打ち方、ソフトボールの打ち方、...	📄	60	低		
ホームラン (6)	バッティング ホームラン、ホームラン打つ方法、ホームランを打つには、ホー...	📄	60	低		
コツ (6)	野球 バッティング コツ、バッティング コツ、バッティングのコツ、軟式野球バ...	📄	50	低		
東京 (5)	バッティングセンター 東京、東京 バッティングセンター、東京のバッティング...	📄	50	低		

宣伝する商品やサービス

バッティング

候補を取得

検索条件を変更

広告グループ: バッティング

←

キーワード (関連性の高い順)		月間平均検索ボリューム	競合性
バッティングネット 自作	10	10	-
バッティングマシン	10	10	-
バッティングゲージ	10	10	-
バッティング理論	10	10	低
トスバッティング	10	10	低
バッティングネット	10	10	低
バッティング用ネット	10	10	-
バッティング 意味	10	10	低
新宿 バッティングセンター	10	10	低
バッティング 基本	10	10	低
横浜 バッティングセンター	10	10	-
バッティングスクール	10	10	-
池袋 バッティングセンター	10	10	低
硬式バッティングセンター	10	10	低

ここに出てきたキーワードを「各記事のタイトル」にしていきます。

たとえば、「**バッティング コツ**」というキーワードがありますが、「**バッティングのコツ**」というような記事タイトルにします。

以前お話したとおり、この検索結果で出てくるキーワードは、実際に Yahoo や Google で検索されている言葉です。

ですので、それだけニーズのあるキーワードで、そのキーワードで記事を作れば、それだけアクセスを呼び込める可能性があるわけです。

または下記の『Ferret』のような別のサイトを使っても構いません
<http://tool.ferret-plus.com/tkwsearch>

キーワードを入力 ? プレミアム会員でFerretPLUSをフル活用!

バッティング 2015年 ▼ 03月 ▼ チェック + 除外キーワード入力

注目のキーワード ? : [皇月賞](#) [ゴールデンウィーク](#) [本屋大賞](#) [甲子園球場](#) [五月人形](#)

同じ意味の言葉 ? 一緒に検索される言葉 ?

最近の履歴: [バッティング](#) [検索履歴をクリア](#)

29件中 1 ~ 29 を表示

1

データ保存

“バッティング”の関連検索語		推移とは?	競合とは?	検索数
☆ バッティングフォーム	推移	競合	G Y b	1,750
☆ 柏バッティングセンター	推移	競合	G Y b	1,500
☆ 赤羽バッティングセンター	推移	競合	G Y b	1,250
☆ バッティングの練習法	推移	競合	G Y b	1,200
☆ 高速プロバッティングバッファ	推移	競合	G Y b	900
☆ バッティング	推移	競合	G Y b	750
☆ 新森バッティングセンター	推移	競合	G Y b	600
☆ 吉祥寺バッティングセンター	推移	競合	G Y b	600
☆ 野球バッティングリストターン映像	推移	競合	G Y b	400
☆ バッティングセンター 瀬戸	推移	競合	G Y b	400
☆ 春日町バッティングセンター 地図	推移	競合	G Y b	400
☆ 群馬県 安中バッティングセンター	推移	競合	G Y b	300
☆ 後樂園バッティング 古葉Y.L.L後樂園 バッティング 古葉Y.L.L	推移	競合	G Y b	300
☆ バッティングパレス素野ばっていんぐばれす	推移	競合	G Y b	300
☆ 野球バッティングフォーム	推移	競合	G Y b	300
☆ 空港バッティングセンター	推移	競合	G Y b	300

それでは、まずこの検索結果から記事タイトルに使う
 キーワードを拾っていきますが、その際の注意点をあげておきます。

▼ニーズのあるキーワードから拾っていく

より多くのアクセスを呼び込むために、
キーワードを拾っているわけですから、

ニーズのある、検索回数の多いキーワードを拾っていきます。

もう一度確認になりますが、

『Google AdWords：キーワード ツール』の場合は、
グローバル月間検索ボリュームの多いものが、
ニーズのあるキーワードとなります。

▼サイトと関係のないキーワードは使わない

検索するメインキーワードによりますが、
作成するサイトと関係のないキーワードがヒットする場合があります。

今回の場合、「ソフトボール バッティング」
「バッティングセンター ○○」などがそうですね。

今回作るサイトは、野球のサイトなので、
ソフトボールの記事を作っても、効果がありませんし、
「バッティングセンター ○○」は
バッティングするための場所についてなので、
あまり関係がありません。

こういったキーワードは記事を作成しても、
意味がありませんので、使わないようにしましょう。

▼記事にしにくいキーワードも使わない

いくらニーズのあるキーワードでも、
自分で記事が書けそうもないキーワードは使わなくても構いません。

無理に使っても記事作成時に悩んで作業が止まってしまいます。
結果として、逆効果になってしまいます。

今回でいえば、私は「バッティング 連続写真」
というキーワードを外しました。

ある程度ニーズはあるようですが、
記事を書くのがむずかしそうに感じました。

おそらく検索する人は、
バッティング時の連続写真を見たいと思っているはずですが、
そんな写真は用意できません。

無理に文字だけの記事で書けないこともないですが、
検索者のニーズとは微妙にズレてしまいますし、
それならカットしてしまおうかなと思いました。

ただ、何でもかんでも「書きにくそうだから、カットしちゃおう」
ということはやめましょう。

せっかくサイトを作っても、
アクセスのないサイトになってしまいますので、
多少はがんばって記事を書くことが大事です。

▼ニーズが低くても購買意欲が強いキーワードは使う

サイトタイトルを決める際にもお話した購買意欲のあるキーワード。
各記事のタイトルを決める際も意識してください。

たとえ、検索回数は少なくても、
購買意欲の強いと思われる言葉や
悩みが深そうな言葉は積極的に使っていきましょう。

検索回数が少ない分、アクセス数はあまり増えませんが、
そのキーワードに対する本気度が違いますので、
成約につながりやすくなります。

どういう言葉がよいのかとういと、
下記のキーワードは割合購買意欲があり、
検索者も真剣に感じて検索していると思われます。

- 「上達」
- 「コツ」
- 「治療」
- 「改善」
- 「解消」
- 「方法」
- 「～したい」
- 「やり方」
- 「克服」
- 「～法」
- 「直す」
- 「治す」

もちろん、これ以外にもいろいろありますし、
メインキーワードによっても変わってきますので、

キーワードを拾う際は購買意欲についても意識してみてください。

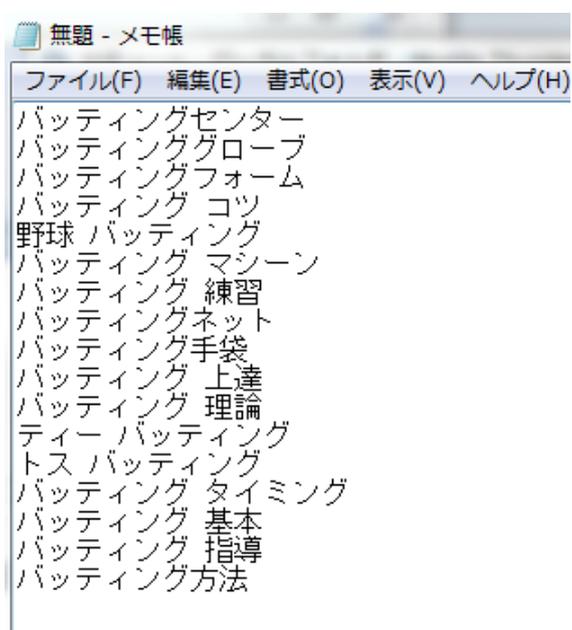
次からは、実例を元にサイト構成の作成手順を紹介します。

■サイト構成の作成手順を覚えよう

まずはじめに、スタートメニュー内のすべてのプログラムから、「アクセサリ」を開き、その中の「メモ帳」を立ち上げます。

このメモ帳の中にキーワードを入れていきます。

それでは、キーワードチェックサイトから、ニーズのあるキーワードを拾って、メモ帳に貼り付けていきます。

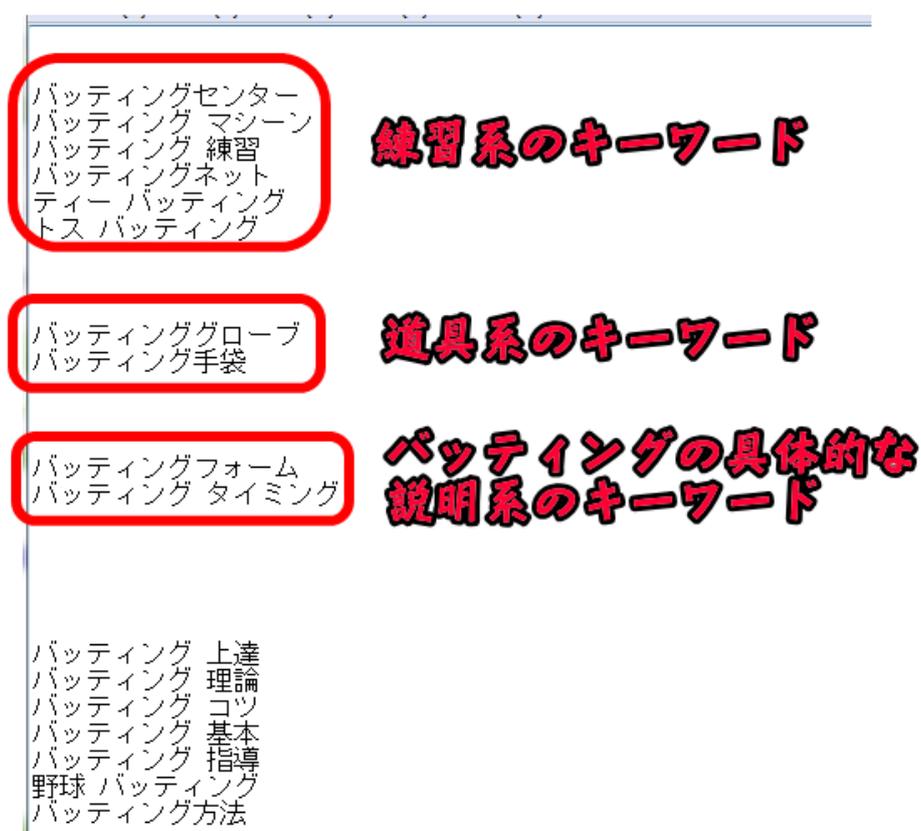


このときはニーズのある順にキーワードを見ていき、あまり深く考えず、

直感的にサイトで使えるキーワードをどんどん選んでいってください。

記事は20～30記事書きますが、あとで付け足していくので、このとき拾うキーワードは20個前後拾えればOKです。

続いて、同じカテゴリにまとめられそうなキーワードをグループ分けしていきます。



今回はこのように分けてみました。

この時点で、サイト構成を確定するわけではないので、ある程度直感的に分けていただいて構いません。

他のキーワードによって、構成を変えていくこともあります。

さて、3つのカテゴリだけだと少なすぎるので、さらにカテゴリを増やしていきます。

グループ分けに入らなかった残りのキーワードを見てみると、カテゴリに使えるような言葉がいくつかあります。

今回は「[バッティング 理論](#)」「[バッティング コツ](#)」というキーワードをカテゴリとして、グループを作っていきたいと思います。

ちなみにですが、「[バッティングマシン](#)」などの具体的な言葉よりも、「[バッティング 理論](#)」「[バッティング コツ](#)」など抽象的な言葉の方が、記事内容が限定されない分、カテゴリにしたとき、下位の記事が書きやすくなります。

もし、「[バッティングマシン](#)」をカテゴリとすると、その中に書く各記事は「〇〇社製バッティングマシン」など、さらに細かいタイトルにしなければいけません。

「[バッティング 理論](#)」「[バッティング コツ](#)」など、多少抽象的なキーワードの方が、下位記事を書きやすいので、カテゴリ記事を決める際は、下位記事のことも含め決めるとよいでしょう。

ここでは、「[バッティング 理論](#)」「[バッティング コツ](#)」を仮のカテゴリ記事として、下位記事で使えるキーワードを、キーワードチェックサイトから拾っていきます。

このときは、**検索回数の低いキーワードまですべてチェックしていきます。**
なお、すでにグループ分けしたカテゴリに

見えそうなキーワードがあれば、併せて拾っていきます。

すると、いろいろ記事にできそうなキーワードが見つかりました。

バッティングセンター
バッティング マシーン
バッティング 練習
バッティングネット
ティー バッティング
トス バッティング

練習系のキーワード

バッティンググローブ
バッティング手袋

道具系のキーワード

バッティングフォーム
バッティング タイミング
バッティング 構え
バッティング ステップ
バッティング テイクバック
バッティング スイング

バッティングの具体的な説明系のキーワード

バッティング 理論
バッティング 飛距離
バッティング 必要な筋肉

バッティングに関する理論系のキーワード

バッティング コツ
バッティング 極意
バッティング 教室

バッティングを上達させるコツをまとめたキーワード

「バッティングの具体的な説明系」では、「構え」「ステップ」「テイクバック」「スイング」などのキーワードを追加しました。

「バッティングに関する理論系」では、「飛距離」「必要な筋肉」を使用。

「バッティングを上達させるコツ」では、「極意」「教室」というキーワードを使いました。

ここらへんは後で、いくらでも変更できますので、
とりあえず直感でキーワードを入れていきます。

これで、サイト構成の大枠ができてきましたので、
あとはキーワードチェックサイトでは出なかった言葉で
記事が作れないか確認します。

たとえ、検索回数が少なかったとしても、
訪問者に役立つ記事であれば、サイトの信頼性があがります。

アクセスを呼び込むための記事にはならないかもしれませんが、
他の記事から続けて記事を読み、サイトに滞在する時間も長くなります。

**サイトの信頼性が増し、サイト滞在時間が長くなれば、
アフィリエイト広告に興味を持ってくれる可能性も高くなるため、
ニーズのあまりない言葉でも、訪問者に役立つような記事なら、
書いていきましょう。**

さて、記事を追加していくときは、
各カテゴリごとに追加できる記事がないか確認します。

たとえば、「道具系のキーワード」は
まだ2つしかキーワードがありませんし、
バッティングに肝心の「バット」が入っていません。

そこで「木製バットの選び方」「金属製バットの選び方」という記事を追加してみました。

訪問者の立場に立ってみれば、バットの選び方やバットについての情報はかなり気になると思いますよね？

こんな感じで訪問者の立場になって、記事を追加していきましょう。
※「バッティンググローブ」と「手袋」は同じなので、今回は「バッティンググローブ(手袋)」として1記事にまとめました

木製バットの選び方
金属バットの選び方
バッティンググローブ(手袋) } **追加したキーワード**

さらに、他のカテゴリでも、キーワードチェックサイトにはありませんが、訪問者が興味を持ち、役に立ちそうな記事を追加してみました。

バッティング 理論
バッティング 飛距離
バッティング 必要な筋肉
手首の使い方
軸足について
肩の動き } **追加したキーワード**

バッティング コツ
バッティング 極意
バッティング 教室
アベレージヒッター
ホームランバッター
広角打法
スランブ } **追加したキーワード**

これで、記事数も十分な数になりましたし、

一度、仮案としてサイト構成を完成させましょう。

まず、グループごとのカテゴリ名を決めていきます。

カテゴリ名は、拾ったキーワードを元にカテゴリ名を付けます。

今回でいえば、「バッティング 練習」「バッティングフォーム」などは、それぞれカテゴリ名として使えそうですね。

カテゴリ名の頭に■をつけて、並び順を整理してみました。

■バッティングフォーム
バッティング 構え
バッティング タイミング
バッティング テイクバック
バッティング ステップ
バッティング スイング

■バッティング 練習
バッティング マシン
ティー バッティング
トス バッティング
バッティングセンター
バッティングネット

■道具を揃える
木製バットの選び方
金属バットの選び方
バッティンググローブ(手袋)

■バッティング 理論
バッティング 飛距離
バッティング 必要な筋肉
手首の使い方
軸足について
肩の動き

■バッティング コツ
バッティング 極意
バッティング 教室
アベレージヒッター
ホームランバッター
広角打法
スランプ

バッティング 上達
バッティング 基本
バッティング 指導
野球 バッティング
バッティング方法

**まだ使用していない
キーワード**

カテゴリ記事が5で、下位記事が24ですね。

このまま、正式に各記事タイトルをつけて完成でもよいですが、念の為、もう一度キーワードチェックサイトの確認をしてみます。

すると、「イチロー」「落合」「和田一浩」と
プロ野球選手の名前が入っていました。

これは、まとめて1つのカテゴリで記事が書けそうですね。
今回はこんな感じで1グループ作ってみました。

```
■プロのバッティングを真似る
イチロー バッティング
落合 バッティング
和田一浩 バッティング
```

さて、あとは微調整として、メモ帳に拾ったけど、
まだ使用していないキーワードがどこかで使えないか確認してみます。

**まだ使用していない
キーワード**

バッティング 上達
バッティング 基本
バッティング 指導
野球 バッティング
バッティング方法

まず、「バッティング 上達」はサイトタイトルで使用していますので、
今回は使わなくても OK です。

残りをみても、「バッティング 基本」は
「バッティングフォーム」の中で記事として使えそうです。

また「野球 バッティング」は
カテゴリ名「プロのバッティングを真似る」を
「プロ野球選手を真似る」と変更すれば、使えますね。

今回は特に大きな変更はありませんでしたが、

この最終調整で作成済みのカテゴリを変更したり、新たにカテゴリに追加したりしても構いません。

**大事なのは、自分が記事をかける範囲で、
できるだけニーズのあるキーワードを使うことですので、
その辺を意識して、最終調整を行ってみてください。**

それでは、以上を踏まえ、各記事タイトルを正式に決めていきます。

■バッティングフォーム

基本
構え方
タイミングのとり方
テイクバック
ステップ
スイング

■練習方法

バッティングマシン
トスバッティング
ティーバッティング
バッティングセンターに行こう
バッティングネットで練習

■道具を揃える

木製バットの選び方
金属バットの選び方
バッティンググローブ(手袋)

■バッティング理論

飛距離を伸ばすには
バッティングに必要な筋肉
手首の使い方
軸足について
肩の動き

■バッティングのコツ

バッティングの極意
バッティング教室
アベレージヒッター
ホームランバッター
広角打法
スランプについて

■プロ野球選手を真似る

イチロー
落合博満
和田一浩

改めて見直してみても、構成にそぐわない記事もないですし、記事も書けそうな内容です。

問題がなければ、最終決定ということで、サイト構成は完了です。

いかがだったでしょうか？

かなり難しく思えた方も多いと思います。
実際このサイト構成の作成は、
慣れないと戸惑うことが多い部分です。

コツとしては、キーワードチェックサイトで拾ったキーワードを
うまくグループ分けすることですね。

それぞれのキーワードをみて、同じグループに分けられないか、
キーワードの意味を考えながら作業してみてください。

グループ分けができれば、おおよそのサイト構成ができますので、
あとは微調整をしていくだけです。

ここもキーワード選びと同じで、
はじめから完璧に仕上げようと思わなくても構いません。

**悩みすぎると、先に進めなくなるので、
完璧でなくても80%くらいの出来なら
OKという気持ちでやってみてください。**

何回かやっていくうちに慣れてきて、
コツを掴めば30分程度でできるようになると思います。

最後に検索結果に表示されたキーワードの使い方
1つ注意点があります。

「バッティング 基本」「バッティング 構え」と
ニーズのあるキーワード見て、

**1記事で「バッティングの基本の構え」と
一緒にしてしまっはいけないということです。**

サイトタイトルを決める際にもお伝えしましたが、
タイトルが長すぎると、
せっかく使ったキーワードが強調されません。

**1記事で2つもキーワードを使うと、キーワードが分散されて、
どちらで検索されても上位表示されなくなる恐れもあり、
せっかく書いた記事が無駄になりかねません。**

「バッティンググローブ（手袋）」のように、
記事の内容上、2記事に分けるのがむずかしい場合は、
仕方ないと思います。

ただ、せっかくのキーワードがもったいないですので、
できるだけ一緒にはせず、
1記事1キーワードで構成していくように心がけてください。

【効率よく良い記事を書いていくには?】

サイト構成も固まったところで、いよいよ記事を書いていきます。

記事を書くにも、きちんと手順があり、
しっかり順序立てて、書いていかないと、
途中で、記事が書けなくなったり、
予想以上に時間がかかってしまったりします。

無駄な手間をかけずに書いていくためにも、
ぜひ、効率のよい記事の書き方をマスターしてください。

■はじめに概略を決めよう

記事を書くと言っても、いきなり各記事タイトルに沿って、
書き始めてはいけません。

記事を書き始める前に、記事ごとにどんなことを書くか、
概略を決めておきます。

概略を決めておかないと、記事を書くごとに
それまでの記事と内容が被らないか確認したりしなければいけません。

また、全記事書き終わってから必要な内容が抜けていたことに
気づくということもあります。

しかも、新しい記事を書く度にどんな内容にするか構成を考えると、
かなり効率が悪くなります。

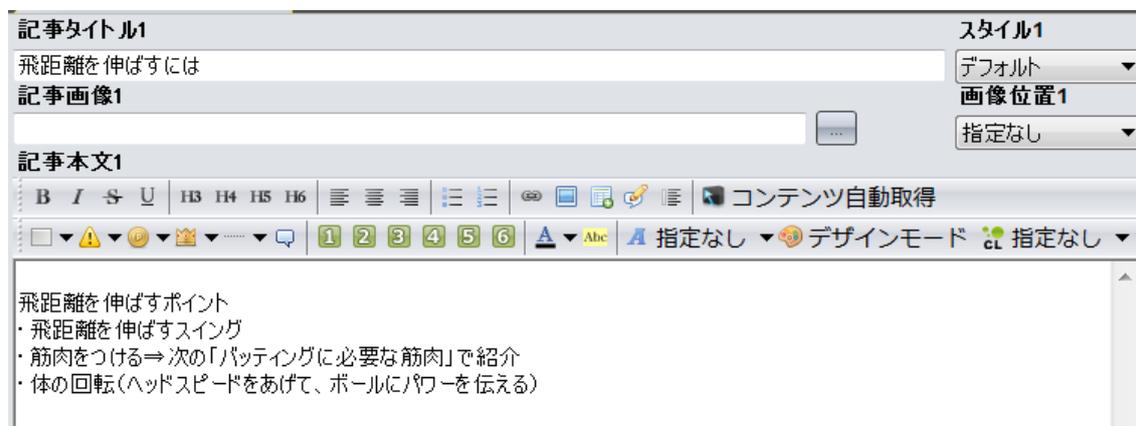
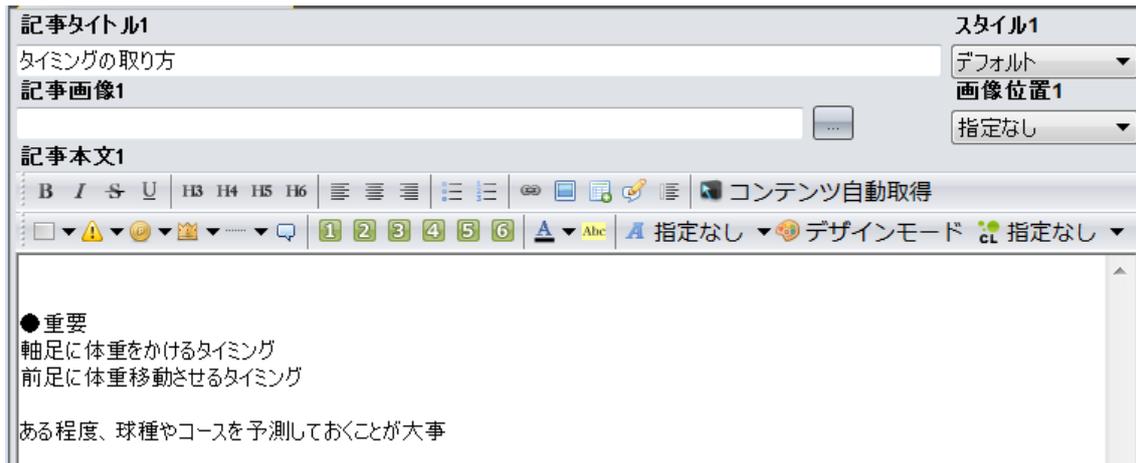
実際に記事を書き始めてから、概略を変更することもあります、
まずははじめに概略を決めて、どんな記事にするのか決めておきましょう。

手間がかかるように感じますが、あとあと修正が増え、
より手間や時間がかかることになります。

概略の書き方に関しては、特に決まりはありません。

どんな内容の記事にするのか、自分でわかるように書いておけば大丈夫です。

今回のバッティングの記事で言えば、
こんな感じで書いておけばよいと思います。



※画像は SIRIUS の編集画面です

概略を書く際、どんな内容にするか迷うと思いますが、
次の「タイトルに合った記事ネタの探し方」で
記事のネタを見つけるとよいでしょう。

■タイトルに合った記事ネタの探し方

記事は当然記事タイトルに沿って、記事を書いていきます。

「トスバッティング」であれば、
トスバッティングのやり方やどんな効果があるのかなど、
トスバッティングに関する記事を書いています。

詳しくわからない記事に関しては、
ネットや書籍などを使って情報を集めていきます。
ただし、著作権法は遵守してくださいね。

ネットで情報を集めるときは、
Google や Yahoo でキーワードを検索して、
調べてもいいですが、
次のような質問サイトで調べてみるのもお薦めです。

『教えて！goo』

<http://oshiete.goo.ne.jp/>

教えて!goo Q&Aを検索

ゲストさん 質問する

教えて!gooにiPhoneアプリが登場! 毎日10人に1人にギフト券が当たるリリース記念キャンペーン実施中!

さあ、質問してみよう!

質問してみる!

ピックアップQ&A

Mao_nasu
Q 加速度の公式の理由
なぜ加速度の公式は Δt 分の Δv なのでしょう?

2015/04/24 15:58 回答数(5)

介護に悩む前に見るサイト
はじめての介護
介護は突然やってくる
いざというときに備えないように
なんとなく知っておきたい
介護の知識とは? 詳しくはこちら!

新規登録 / ログイン

goo Twitter Facebook Google+

『Yahoo!知恵袋』

<http://chiebukuro.yahoo.co.jp/>

サイトを開いたら、検索窓にキーワードを打ち込んで検索をします。

すると、キーワードに関連した質問タイトル一覧が表示されます。

各タイトルをクリックしていくと、質問と回答を見ることができますので、この情報を参考にします。

タイトルによってはかなり役立つ内容もあり、記事作成にはとても役立ちます。

このような手順で各記事を作成してってください。

■ライティングのポイントとは？

概略も決まり、いよいよ記事を書いていきますが、ここでは記事の形式やどんな点に留意しながら、記事をかけばよいのか説明をしていきますね。

▼訪問者（ユーザー）目線の記事

記事はただ文字数を稼いで、だらだらと書いてはいけません。

訪問者の立場に立ち、訪問者が検索したキーワードに沿った記事を書きます。

読まなくても知っている（当たり前の）内容や、同じような内容が繰り返し出てきたら、誰だって、記事を読みたくなくなると思います。

ただ、よい記事を書こうと思いついで、記事が書けなくなる（作業が止まってしまう）のもいけません。

実際、訪問者に役立つ記事を書こうとすると、いくらネットなどで調べても、なかなかよいネタがないこともあります。

ですので、お薦めなのは

「普通は知らないけれど、ちょっと調べればわかるくらいの情報を記事にする」というスタンスです。

正直、100%満足してもらおう記事を書くということはむずかしいですし、

現実的ではありません。

だからと言って、読まなくてもわかるような
当たり前の内容が記事になっていると、
せっかくの訪問者もすぐにサイトを閉じてしまいます。

でも、そこで

「普通は知らないけれど、ちょっと調べればわかるくらいの情報」が
載っていれば、訪問者も参考になると思いますし、
もしその情報を知っていても、
このサイトの筆者は知識のある人だなど、
他の記事も読んでもらいやすくなります。

▼1記事500～700文字程度

アドセンスを貼る訳ではないので、
それほど気にしなくてもよいと思いますが、
目安があった方がよいと思いますので、明記しました。

やはり、文字数があまりに少ないと訪問者にも
「コンテンツの充実していないサイト」と思われ、
サイトの信頼性が落ちてしまいます。

少なくとも500文字以上はあった方がよいと思います。

一方、文字数が多い場合はそれほど問題ではありません。

ただ、無駄に長いと訪問者に読み疲れをさせてしまうので、
1000文字を超えるような場合は、

2記事に分けてしまった方がよいでしょう。
※内容的にむずかしければ、そのまま1記事でも構いません。

あと、気をつけたいのは、
全記事すべて文字数が500文字前後というケース。

通常、訪問者の役に立つ記事を書こうとすれば、
当然記事ごとに内容量が変わってきます。

それを500文字書けばOKだからと
一律500文字程度で切ってしまうと、
訪問者にとっては中途半端な記事になってしまいます。

500文字はあくまでも最低文字数と考えて、
実際の文字数は、訪問者に役立つ内容になっているかどうかで
決めるというスタンスが大事だと思います

手間が増えるので、
あまり記事を多く書きたくない気持ちはわかりますが、
500文字程度で収めてしまうのは、あくまで自分の都合です。

訪問者に喜んでほしいなと思えば、
自然と文字数も記事ごとで違ってくと思うので、
文字数が揃いすぎている人は、その点に注意してみてください。

▼あいまいな表現はさける

もともと、書くテーマに精通していない場合、
どうしても記事内容に自信が持てず、

あいまいな表現をしてしまいがちです。

あいまいな表現が多いと、何が言いたいのか伝わりにくいですし、記事の信頼度も下がります。

たとえば下記の文章ですが、どちらが読みやすく、信頼できるでしょうか

「昔は育児うつという言葉もなかったため、いくら本人がツライと言っても、周りの人には怠けているだけだと判断されてしまう傾向もあったようです。」

「昔は育児うつという言葉もなかったため、いくら本人がツライと言っても、周りの人には怠けているだけだと誤って判断されていました。」

前者は「傾向」「も」「ようです」など、
ぼかしたり、断定しない表現が多用されているため、
読みにくいですし、あまり説得力もないですね。

後者はあいまいな表現もなく、すっきりした言い回しなので、
理解しやすいし、文章の説得力もあります。

サイトの内容に信頼性がないと、
せっかく情報商材をサイト内で紹介しても、
購入率が下がってしまいます。

あまり断定表現が多すぎると、
押しつけがましくなるので注意が必要ですが、
基本的には訪問者に情報を教えてあげる立場なので、
あいまいな言い方ではなく、ハッキリした言い方を心がけてください。

▼わかりやすい表現で書く

そのテーマについて詳しく説明をしようとする、専門的な内容になるので、専門用語を使ったり、難解な言い回しになってしまうことがあります。

ただ難解なテーマで、さらに文章・言い回しまで難解だと、訪問者は読み疲れをしてしまい、ちゃんと記事を読んでもらえません。

この点でも訪問者の立場に立って、誰でも理解できる書き方を心がけてください。

コツとしては、中高生でも理解できるような感じでよいと思います。

また、どうしても複雑でわかりにくい文章になってしまうという場合は、できるだけ1文の長さを短くしてみてください。

わかりにくい文章というのは、接続詞などを多用して、だらだら長くなっていることが多いです。

1文1文が短ければ、その都度内容を把握しながら、読み進められるので、だいぶ読みやすくなると思います。

▼見直しをする

当たり前ですが、記事が書き終わったら見直しをしてください。

ちゃんと書いたつもりでも、意外に書き間違いがあったり、

同じようなことを繰り返し書いていたり、修正点が見つかるはずです。

また、これまでお伝えしてきた、あいまいな表現が多すぎないか、複雑で難解な表現はしていないかなども、改めて読み直すと気づいたりします。

■著作権法違反をしないために

記事ネタの探し方で、他のサイトや書籍の情報を参考にする方法をお話しましたが、ここでは、その際問題になる著作権について説明をします。

著作権に関しては、正直どこまでやったら違反にあたるという明確な線引きはありません。

結局は裁判所の判断ということになってしまいますので、**原文に近い文章は書かず、できるだけ余裕をもって、絶対に著作権は違反していないと言える文章にしなくてはなりません。**

そもそも他の文章を参考にして書く場合、記事は3パターンに分けることができます。

- ・盗用記事
- ・リライト記事
- ・オリジナル記事

「盗用記事」は、ほぼそのまま原文どおり、文章をコピーして作った記事を指します。

語尾を若干変えたり、一部の単語を入れ換えただけの記事も盗用記事に含まれ、完全に著作権法違反にあたります。

「**リライト記事**」というのは、原文をベースにして著作権法にならないよう、文章を意識したり、別の言葉に言い換えたりした記事を指します。

しっかりリライトすれば、著作権法違反には当たらないとされていますが、中途半端なリライトだとアウトになる可能性もあります。

「**オリジナル記事**」は原文をベースにはしません。参考にするのは、原文の内容だけで、文章・言い回し自体は参考にせず、自分の言葉で記事を書きます。

NPAで書いていただく記事も、このオリジナル記事になります。

まず、ほとんどの方が、盗用記事を書こうとすることはないと思います。著作権を持っている人が記事を見たら、1発でアウトですから。

問題なのはリライト記事だと思います。

著作権違反に当たらないのであれば、できるだけ楽をしたいし、リライト記事でサイトを作っていこうと考える方もいるかもしれません。

ただ、個人的にはまったくお薦めできません。理由は3つあります。

▼訴えられるかもしれないリスク

自分ではしっかりリライトしているので、問題ないと思っていても、リライトをされた元記事の著作権者は「記事を真似された」と思うかもしれません。

すぐに裁判とはならなくても、その対応でかなり面倒なことになります。

万が一、話がこじれて裁判沙汰にでもなれば、有罪にならなかったとしても、時間やお金を大きく浪費することになります。

▼検索エンジンに嫌われるリスク

コピー&ペーストしただけの盗用記事は検索エンジンに嫌われ、上位表示されにくかったり、インデックスされなかったりします。

検索エンジンの精度も日々進化していますので、リライト記事も場合によっては同じような影響を受ける可能性があります。

こうなると、もう一度サイトを作り直さなければならず、完全な二度手間になります。

▼検索者の立場に立った記事にならない

原文をベースにしてリライトしますと、本当に訪問者が知りたいと思う内容とズレてしまう可能性があります。

やはり、訪問者の立場に立って記事を書くことが大事なので、リライトは避けるべきでしょう。

これで、リライト記事のデメリットはよくわかったと思います。

**盗用記事は言語道断ですが、
リライト記事も書かないように気をつけましょう。**

オリジナル記事を書くためのコツとしては、
下記の点に気をつけましょう

- ・参考にするのは内容だけ（文章・言い回しは参考にしない）
- ・複数のサイト、書籍を参考にして、自分の考えを紙に書くなどまとめる
- ・元記事を見ながら、記事を書かないこと

特に最後の「元記事を見ながら、記事を書かないこと」には注意しましょう。

**元記事の文章を見ながら、記事を書いていくと
ついつい同じ文章、言い回しになってしまいます。**

あとで、しっかり構成、文章を変えていけば大丈夫と
考えている方もいるかもしれませんが、
リライト記事になってしまう可能性もあるので、
記事を書くときは、元記事を見ないようにしましょう。

見るとしても内容の再確認だけで、確認が済んだら、
元記事は見えないようにしてください。

以上で著作権についての説明を終わりにします。
いろいろお話してきましたが、要は自分の言葉で記事を書くということです。

自分の言葉で書くようにしていれば、訴えられることもありませんし、特に心配するような点ではありません。

何より、あまり気にしすぎると記事が書けなくなってしまうからね。

■ 「うまく記事が書けない…」 という場合は

ライティングに慣れていないと、
どうしても「記事が書けない」と途中で止まってしまうことがあります。

慣れないうちは時間がかかってしまいますが、
そこで「やっぱり自分にはセンスがない」と
諦めてしまってはいけません。

実際、記事が書けないのはセンスや才能の問題ではありません。

一口に記事が書けないと言っても、原因はいくつかあり、
その原因を切り分けて考えれば、ずいぶん対処もしやすくなります。

そもそも、「記事を書く」という作業は3つの工程に分けられます。

- ① 記事の内容を考える
- ② その内容をどのように書くか（言い回し、表現、構成）考える
- ③ 実際に文章にする

まず自分の場合、どこで詰まっているのかを考えなければいけません。

ただ単に記事が書けないからと言って、
パニックになって頭を抱えていても、まったく解決しません。

そもそも書く内容が決まってないのか、
それともどのように書くかわからないのか、
原因をハッキリさせて対処していきましょう。

まず「記事の内容を考える」が原因の場合。

記事の中身が決まらなければ、そもそも書くことはできません。

NPAでは、
まずはじめに各記事の**概略**を決めておくようお伝えしましたね。

ですので、いざ記事を書く際、
まったく何を書いていいのかわらないという場合は、
概略の決め方が甘い場合がほとんどです。

この場合は、急いで記事を書こうとせず、
もう一度概略の練り直しをした方がいいです。

中途半端に進んでしまうと、あとで修正するのが大変ですので。

続いて、
「その内容をどのように書くか（言い回し、表現、構成）考える」

で詰まっている場合。

まず、言い回し、表現については慣れもありますし、訪問者に読みやすい文章という意識があれば、それほどむずかしく考えなくても大丈夫です。

どちらかという、問題なのは「構成」の方だと思います。構成とは、どのような順番で話をしていくかということですね。

どのような構成でその記事を書くか、
これは記事を書き始める前にある程度考えておいた方がよいと思います。

ポイントとしては、
その記事の中で一番伝えたいポイントをどこに置くかです。

個人的には複雑な話や少しわかりにくい内容の場合は、一番のポイントを記事のはじめに置いた方が読みやすいと思います。

そのあとで、なぜそうなのか理由を書いていけば、記事に納得してもらいやすいですし、理解もしやすくなります。

逆に一番のポイントがシンプルで聞けば誰でも納得するような場合は、記事の最後に持っていきます。

一番のポイントを冒頭に持ってきてしまうと、そこを読んだ時点で訪問者も納得してしまい、最後まで読んでくれない可能性があります。

シンプルで誰でも納得できるような結論の場合、その理由が重要ですので、前半に理由を持ってきて、最後にポイントを置きます。

このようにその記事のポイントをどこに置くか考えるだけでも、構成はかなり考えやすくなると思います。

最後の「**実際に文章にする**」については、ほとんど悩む人はいないと思います。

入力が早い、遅いはあるにしても、文字を入力していけばよいだけですので。

ずっと文字を入力し続けると、腕が疲れてくる、集中力がなくなるなど、スピードが落ちる場合は、品質のいいキーボードに変えるなどの対策をとってみるとよいでしょう。

以上で、記事が書けない場合の対策法について、解説を終わりにします。

今回お話した原因の切り分けがわかるだけでも、だいぶ対処がしやすくなると思います。

【トップページの書き方を覚えよう】

これまでは各記事の書き方について、紹介してきましたが、ここではトップページの書き方についてお話します。

トップページは他の記事と比べ、書く内容が違ってきます。

そもそもトップページ以外の各記事では、それぞれのキーワードに沿って、記事を書いてきましたよね。

「バッティング スイング」であれば、スイングについての記事を書きましたし、「トスバッティング」であれば、トスバッティングのやり方、効果などの記事を書きました。

ところがトップページでは、キーワード（「バッティング 上達」）について、話を進めるのではなく、サイト全体の説明をするというイメージで書いていきます。

バッティングを上達させる具体的な方法を書くわけではないということです。トップページは、通常一番アクセス数が多く、一番初めに読んでもらう確率が高いページです。

サイトの入り口にあたるので、どんなサイトなのか紹介して、興味をもってもらうことが大事です。

では、どのようなことを書けばよいのでしょうか。私が気を配っているのは、下記のポイントです。

- ・冒頭に気を引くフレーズを使う
- ・サイトの記事を読む動機付けを与える

それぞれ詳しく解説をしていきますね。

■冒頭に気を引くフレーズを使おう

冒頭に「**気を引くフレーズ**」って、
どんなフレーズを使うんだと思いますか？

冒頭は訪問者がサイト開いて、真っ先に読む部分です。

内容によっては、最初の文章を読んだだけで、
サイトを閉じてしまう人もいますので、
訪問者の気を引く書き方が大事です。

と言うと、むずかしく考えてしまう方もいると思うので、
簡単な方法を2つ紹介しますね。

▼疑問形で始まる

有名なライティング手法の1つでもありますが、
冒頭にいきなり疑問形を使うという方法があります。

いきなり疑問形で聞かれると、読者は「おやっ？」と思いますし、
その疑問に対し、頭の中で無意識に考え始めます。

内容はサイトのテーマに関することであれば、特別なことでなくても
構わないので、ぜひ使ってみてください。

じつはこのページの出だしも疑問形を使っています。
気付かれましたか……？

▼意外なことを言う（通説とは逆のことを言う）

たとえばですが、

「英語を話せるようになりたいなら、英語を勉強してはいけません」

「ダイエットで食事量を減らすと、逆に太ります」

などと言われたら、「えっ？」って思っただけで気になりますよね。

思わずそのあとの文章も読んでみたくなるはずです。

これが、もし下記の文章だったら、どうでしょう。

「英語を話せるようになりたいなら、英語をしっかりと勉強しましょう」

「ダイエットで食事量を減らすと、痩せられます」

当たり前すぎますよね？

読まなくても知っている常識的なことが、いきなり書かれていると、
他の記事も一般的な当たり前のことしか
書かれていないサイトと思われてしまいます。

最悪、そのままサイトを閉じられてしまうかもしれません。

ですので、もし、意外と思えることがあれば、冒頭で書いてみましょう。

そのあとは簡単に、その理由を紹介して、サイトの説明に入ればOKです。

「受験英語なら勉強することが大事ですが、ネイティブのように話せるようになりたいなら、勉強と意識しないくらい、日常から英語に触れていることが重要なんです～」

「なぜなら、栄養が補給されないと体は危機感を持ち、次に栄養分が入ってきたとき、より効率的に栄養を吸収しようとするからです～」

こんな感じですね。

■サイトの記事を読む動機付けを与えよう

サイトの記事を読む動機付けを与えるって、なんだ？
と思った方もいると思います。

わかりやすくいうと、
訪問者にサイトの記事を読みたいと思わせることです。

どうしたら、「このサイトの記事を読みたい」と思わせることができるのでしょうか。

ポイントとしては3つあります。

- ・サイトの記事を読むメリット
- ・サイトの情報を知らないとどんなデメリットがあるか
- ・筆者がそのテーマに精通していること

3つすべてを満たさなくてもよいですが、
以上の点に言及していると、訪問者もより読みたいという気持ちが増します。

▼サイトの記事を読むメリット

今回のサイトでいえば、バッティングのサイトですので、
バッティングに関する詳しい情報があり、
バッティングの上達に役立つということをアピールします。

「バッティングの構え方からフォーム、タイミングのとり方や練習方法はもちろん、
打撃の理論やコツを説明していきます。」
こんな感じで、サイトの良さを伝えましょう。

▼サイトの情報を知らないとどんなデメリットがあるか

最初と逆ですね。
知らない、「損をしますよ」「悪い状況になりますよ」といった
デメリットについて言及します。

文章例とはしては、こんな感じですね。

「英語の勉強法にはコツがあるんです。これを知らないが無駄な努力をすることになります。」

「歯肉炎を放っておくと、歯周病、歯槽膿漏など恐ろしい病気になってしまいます。正しい知識をもって、きちんとしたケアをすることが大切です。」

▼筆者がそのテーマに精通していること

同じことを書いていても、その筆者がどれだけそのテーマに精通しているかによって、読者の反応は大きく変わります。

たとえば、英会話のサイトで、

「帰国子女でTOEIC900点の人」と、
「英語の勉強は高校までで、ネイティブと話したこともない人」、
どちらの記事を読みたいと思うでしょうか。

また、ダイエットのサイトで、

「食事法を勉強し、-30kgのダイエットに成功したスタイル抜群の人」と、
「今までダイエットを1回もしたことないぽっちゃり体型の人」、
どちらの記事が読みたいでしょうか。

当然、前者ですよね。

特にそのテーマについてアピールできるものがなければ、
書かなくてかまいませんが、もしアピールできる経歴などあれば、
ぜひ書いてみてください。

それだけでも、サイトの売りになりますし、
サイトの信頼性もあがります。

【カテゴリ記事で使える時短テクニック】

カテゴリ記事も基本的には、他の各記事と同じように、キーワードに基づいて、ライティングしていきます。

ただ、場合によっては、数行の記事で終わらせることもアリです。

サイト作成ツールのテンプレートにもよりますが、カテゴリページは、記事本文の下部に、そのカテゴリに属する下位記事の一覧が表示されます。

その一覧で、各記事の出だしが一部表示される仕様ですと、その文字数だけでも、それなりのボリュームになります。

練習方法エントリー一覧

● バッティングマシン

バッティングマシンは、正式には、ピッチングマシンといいますが、ピッチャーに代わって、ボールが投球される機械のことです。バッティングマシンは、大きく分けて2種類あります。1つはアーム式といって、名前の通り、腕の振りのように、アームが動いてボールが投げられます。基本的にストレートのみに対応しています。ピッチャーの投げをイメージしやすいので、タイミングをとる練習に向いています。2つ目はローター(ホイール)式です。ローター式は、ストレートだけでなく、カーブやスライダーなど色々な球種が投げられますが、別...

● トスバッティング

トスバッティングとは、近距離の右斜め前からトスを上げてもらい、それをワンバウンドで打ち返す練習のことです。トスバッティングは、正確に、投げている人に返すようにするため、コントロールを身につけるのに役立ちます。また、芯でボールをミートする感覚を覚えるためにも良いでしょう。相手にゆるいトスを上げてもらい、ボールをよく見てきちんとためてから芯でミートさせます。打ったボールは、相手にワンバウンドで返さなくてはいけませんので、振り下ろすイメージで打つようにしましょう。ボールがゆっくりなので、ガマンできずこ...

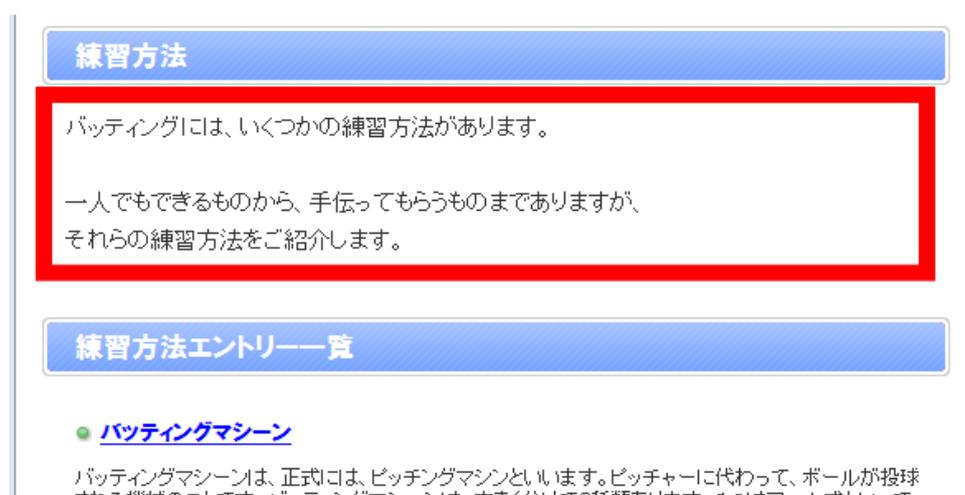
● ティーバッティング

ティーバッティングとは、正確には、「ティーバッティングスタンド」に乗せたボールを打つ練習のことです。しかし、上記を「置きティーバッティング」といって、トスバッティングのことをティーバッティングと呼ぶことが多いです。その場合は、トスバッティングは、正面から投げ手がボールを投げて、それをワンバウンドで打ち返すイメージはわかりません。また、「置きティーバッティング」のイメージは、練習にはいいですが、そのト...

各記事の出だしが表示

画像の例は AQUAS で作成した場合です。

この場合、カテゴリ記事は、
カテゴリ全体を説明する 2～3 行の記事でも、
形にはなりますので、かなり時間が短縮できます。



もちろん、できればカテゴリ記事もしっかり書いた方が
サイトの評価も高まると思いますが、
時間短縮できれば、次のサイト作成に早く入れます。

肝心のアクセスも、この方法で十分拾えます。
実際、私のサイトでも、この書き方で、
上位表示しているカテゴリページはいくつもあります。

記事は 2～3 行でも、タイトルにキーワードが入っていますし、
文字数も十分あるページなので、他の記事と同じように、
アクセスが来るようです。

これを逆手にとって、

記事が書きにくいと思うキーワードを
カテゴリ記事にするというのもアリですね。

たった2〜3行書けばいいだけなので、
書きにくいキーワードも記事として成立させることができます。

どちらの方法でも間違いではないので、
お好みの方法を選んでください。

以上で記事作成編は終了となります。